



2024年1月29日

各位

会社名 アジャイルメディア・ネットワーク株式会社
代表者名 代表取締役社長 宮地 広志
(コード番号 6573 グロース)
問合せ先 取締役 CFO 川上 元樹
(TEL 03-6435-7130 (代表))

営業外費用、特別利益及び特別損失の計上並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年12月期決算において、下記のとおり営業外費用、特別利益及び特別損失を計上する見込みであるとともに、2023年12月末までの業績の動向等を踏まえ、2023年8月10日付「第2四半期連結業績予想と実績値の差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しておりました2023年12月期（2023年1月1日から2023年12月31日）の通期連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 営業外費用の計上及びその内容について

当社の持分法適用関連会社である papaya japan 株式会社について当第4四半期連結会計期間に持分法による投資損失を3,411千円計上いたします。これにより当連結会計年度において持分法による投資損失は10,982千円となる見込みです。

2. 特別利益の計上及びその内容について

旧役員への損害賠償請求の交渉の一環で、損害賠償請求権の一部として当第4四半期連結会計期間において19,290千円の入金がありました。過年度に計上されていた貸倒引当金を同額戻し入れたので、貸倒引当金戻入益が同額計上される見込みです。これにより当連結会計年度において貸倒引当金戻入益は21,290千円となる見込みです。

3. 特別損失の計上及びその内容について

当社の子会社である株式会社コンフィについて、のれんの現在価値を算定したところその超過収益力の毀損が認められましたので、のれんの全部について減損損失を認識いたします。これにより減損損失が35,409千円計上される見込みです。

4. 業績予想の修正について

(1) 2023年12月期通期連結業績予想数値の修正(2023年1月1日～2023年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 461	百万円 △297	百万円 △303	百万円 △304	円 銭 △53.97
今回修正予想(B)	289	△402	△414	△431	△23.75
増減額(B-A)	△172	△104	△111	△126	
増減率(%)	△37.4	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2022年12月期)	447	△223	△224	△231	△77.00

(注) 当社は2023年10月6日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。上表における1株当たり当期純利益につき、前回発表予想△53.97円と、前期実績△77.00円は、株式分割前の数値であります。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定すると、前回発表予想は△17.99円、前期実績は△25.67円です。

(2) 業績予想修正の理由

当社におけるアンバサダープラットフォームの新規顧客について、前回発表予想では2023年12月末までに50件を見込んでおりましたが、今回修正予想では34件となりました。当社の営業人員に退職があったので新規獲得のための活動ができなかったことが主たる要因であると分析しております。これにより前回発表予想では282百万円の売上高を見込んでおりましたが、今回修正予想では276百万円の売上高となる見込みです。子会社である株式会社コンフィにおいて、計画で予定していたSNSチャンネルの運營業務その他コンサルティング業務の受注が伸び悩み、想定していた売上を計上することができず売上高が5百万円減少する見込みとなっております。子会社であるand health 株式会社について現時点では健康美容機器の試作を終え生産販売を開始しておりますが、想定していたスケジュールより遅れたため、当連結会計年度中に出荷することができておりません。現時点での受注は5件であります。この結果、前回発表予想では売上高を168百万円と見込んでおりましたが、今回修正予想ではゼロの見込みとなっております。これらの理由から売上高が前回予想を下回る見込みとなりました。利益については、上記の売上減少の要因に加え、持分法適用関連会社であったpapaya japan 株式会社について韓国に特化したインフルエンサーマーケティングを起ち上げましたが、想定した受注を獲得することができず利益に貢献しませんでした。これにより前回発表予想に比べ、経常利益を6百万円減少させる見込みです。このほか旧役職員に対する責任追及のための費用として約5百万円が、M&Aを実施したことによる外部専門家等へ支払う費

用として約 11 百万円が発生した等がありました。更に、上述 3. 特別損失の計上及びその内容について記載のとおり減損損失を 35 百万円計上しております。これらの理由により前回予想を下回る見込みとなりました。

以上により、前回発表の業績予想に比べ、売上高が減少する見込みに加え営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益がそれぞれ損失拡大する見込みとなったので、今回の業績予想の修正を行うことといたしました。

(注) 上記の業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいたものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

以上